

銅と水産養殖

一般社団法人 日本銅センター 副会長
三菱伸銅株式会社 取締役社長

堀 和雅



私が養殖用の銅合金網に出会ったのは、今から20年前になります。本誌「銅」第179号で紹介された三菱伸銅社が開発した銅合金製網です。通常は化繊の網が養殖の生簀に使われますが、藻・貝類が付着するため、メンテナンスが大変で、1970年代に、それらが付着しない銅合金網の生簀が国内外でブームになりました。しかし、耐食性や耐摩耗性の問題で長持ちせず、市場から消えたことを知り心配しましたが、新開発の銅合金の性能が良く、広く国内で普及することになります。

その後、輸出の機会を得ましたが、きっかけはタスマニア島の養殖業者が、実際に銅合金網の使用状況を見たいと日本に来て、厳寒の瀬戸内海にもぐり、藻・貝類の付いていないことを確認して帰ったことに始まります。私も直ぐに商談のため、タスマニア島に飛びましたが、今まで見た日本の養殖場と違い、機械化、コンピュータ化が進んでいたことに驚かされました。まさに漁業ではなく工業でした。藻・貝類の除去に潜水夫を雇っていることや、アザラシが養殖魚を狙って生簀の周りを泳いでいるのを目にし、銅合金網の有効性を確信した記憶があります。

世界漁業・養殖白書によると、天然魚の漁獲量は2000年以降頭打ちで、今や食用魚介類の半分は養殖です。養殖には、餌が家畜の数分の二で済むと言う利点もあります。世界の魚介類の消費量は健康ブームもあって、すでに人口増加率を上回り、養殖は将来の世界の食糧問題を解決する手段として大いに期待されています。その一方で、化繊網の洗浄に使う薬剤による環境汚染や、魚の病気を防ぐ抗生物質や殺虫剤の投与による魚の安全性の問題も指摘されています。

世界のトレンドとは逆に、日本は人口減少が続く中、若年層の魚離れもあり、養殖魚の生産量は低位安定ですが、銅の力で環境に優しく、安全な養殖を実現させ、日本の得意なセンサー技術と機械化で生産性を上げれば、世界の食糧問題に大きな貢献ができると思います。



タスマニア島の銅合金網生簀(棧橋左側)

銅

目次

2	カパロマン 銅と水産養殖 堀 和雅
3	Angie 銅を支えるテクノロジー 世界トップレベルの品質を支える 銅板面削機
4	ルポルターージュ 史跡尾去沢鉱山 日本近代化の源流を訪ね 国内最大規模の坑道に潜る
6	ユーザー訪問 時代の二手先を読むビジネスへ 銅は、その大切なツールの一つ
8	リレー随想 銅の素材に魅せられて 赤川政由
10	カパワールド 良い音を追求したら、無酸素銅ボディに 行きついた。 ソニー史上最強のウォークマン、誕生！
12	カパワールド 大型冷凍冷蔵機の中で 銅一色に輝く熱交換器
13	カパリストラクチャー 銅屋根が参拝者をやさしく迎える 重願寺
14	銅センターニュース トピックス